



仙台市水道局キャラクター

ウォーターくん

# 令和元年度事業報告

---

仙台市水道局

## 1. はじめに

- 仙台市水道局では、平成 22 年 3 月に策定した「仙台市水道事業基本計画（平成 22 年度～令和元年度）」（以下「基本計画」という。）及びその後半 5 年間の実施計画である「仙台市水道事業中期経営計画（平成 27 年度～令和元年度）」（以下「中期経営計画」という。）に基づき、各年度の事業に取り組んできました。

このたび、令和元年度における事業報告がまとまりましたので、お知らせいたします。

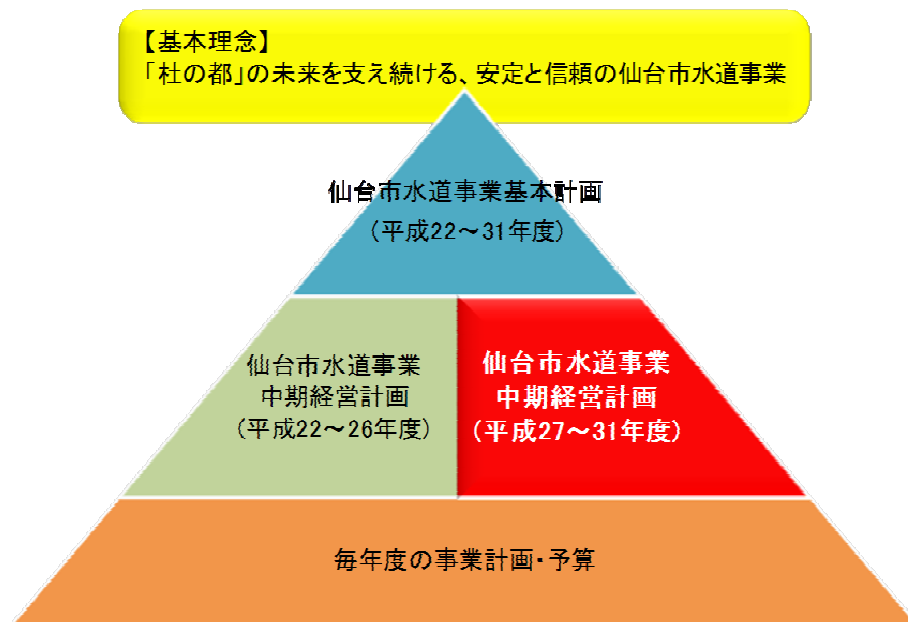


図1 仙台市水道事業の計画体系

## 2. 決算の概況

- 本年度の水道事業は、「仙台市水道事業中期経営計画」（平成27年度～令和元年度）の最終年度にあたり、計画に掲げる事業を着実に推進し、強くて安心な水道、エコで持続可能な水道づくりに取り組みながら、お客さまへの安全・安心で良質な水道水の安定供給に努めてまいりました。
- 事業実績につきましては、年間総配水量が1億1,978万5千立方メートル、前年度比51万4千立方メートル（0.4%）減、年間有収水量が1億1,302万1千立方メートル、前年度比47万9千立方メートル（0.4%）減となり、有収率は前年度より0.1ポイント向上して94.4%となりました。
- 経営面につきましては、80年後を見据えた長期的な資産管理の考え方である「アセットマネジメントの方向性」と、30年後を見据えた持続可能かつ強靱な施設形態の構築を目指す「水道施設再構築構想」を示すとともに、目指す将来像を設定し、今後10年間に取り組むべき施策の基本的方向性を定めた「仙台市水道事業基本計画（令和2年度～11年度）」を策定しました。
- 次に、建設改良事業につきましては、配水管整備事業で、基幹管路の新設工事や配水支管の更新工事などを行い、事業費59億4千万円を支出し、配水管延べ32,934メートルを布設しました。また、施設整備事業では、荒巻配水所更新工事や茂庭浄水場配水池耐震補強工事等の災害対策関連事業を行ったほか、福岡浄水場系監視カメラ新設・更新工事等の安全対策関連事業などを行い、事業費41億2千9百万円を支出しました。
- 財政状況につきましては、収益的収支（消費税及び地方消費税抜き）において、総収益277億5千9百万円に対し、総費用249億6千2百万円で、差引27億9千7百万円の純利益となりました。
- 以上が決算の概況でございますが、今後も計画的かつ効率的な事業運営による経営基盤の強化やサービスの向上に努めるとともに、危機管理上の新たな課題である新型コロナウイルス感染症に対し万全な対策を講じながら、安全で良質な水道水を安定的に供給していくことを通じて、お客さまと地域社会に一層信頼される水道事業を目指してまいります。

### 3. 事業実績

区 分 \ 年 度	単 位	令和元年度 (E)	平成30年度 (F)	対前年度比較	
				増減(△減) (E-F)	比率 (E/F)%
計画給水区域内人口 (A)	人	1,064,212	1,061,715	2,497	100.2
給水人口 (B)	人	1,061,155	1,058,549	2,606	100.2
年間総配水量 (C)	m <sup>3</sup>	119,785,439	120,298,943	△ 513,504	99.6
(仙台市配水量)	m <sup>3</sup>	( 115,683,407 )	( 116,105,602 )	( △ 422,195 )	( 99.6 )
(他市町分水量)	m <sup>3</sup>	( 4,102,032 )	( 4,193,341 )	( △ 91,309 )	( 97.8 )
配水能力	m <sup>3</sup> /日	412,670	425,215	△ 12,545	97.0
一日平均配水量	m <sup>3</sup>	327,283	329,586	△ 2,303	99.3
一日最大配水量	m <sup>3</sup>	355,652	359,172	△ 3,520	99.0
使用給水栓数	栓	464,799	459,406	5,393	101.2
年間有効水量	m <sup>3</sup>	115,770,423	116,217,496	△ 447,073	99.6
年間有収水量 (D)	m <sup>3</sup>	113,020,954	113,500,467	△ 479,513	99.6
配水管延長	km	3,494	3,480	14	100.4
職員数 (管理者除く)	人	412	411	1	100.2
普及率 (B/A)	%	99.7	99.7	0.0	-
有収率 (D/C)	%	94.4	94.3	0.1	-

## 4. 財政状況

水道料金収入などの収益的収入が277億5,900万円となる一方で、人件費、物件費などの収益的支出が249億6,200万円となり、その結果、27億9,700万円の純利益（黒字）となりました。この純利益については、全額を建設改良費積立金（建設改良費に充てるための積立金）として積み立てました。

### (1) 収益的収支

- 水道水をつくり、ご家庭にお届けするための財源と経費です。

**収入 277億5,900万円**

お客さまからの水道料金 230億7,500万円	その他 46億8,400万円
----------------------------	-------------------

**支出 249億6,200万円**

人件費 34億 200万円	物件費など 70億1,300万円	受水費 58億2,000万円	減価償却費 77億9,200万円	支払利息 9億 3,500万円
---------------------	---------------------	-------------------	---------------------	-----------------------

県などから浄水を  
購入するための費用

水道施設などの資産価値の目  
減り分を毎年の費用として計  
上したもの

国などから  
の借入金の  
利息の返済

当年度純利益27億9,700万円

### (2) 資本的収支

- 水道施設を建設・改良するために必要な財源と経費です。

**収入 50億6,600万円**

企業債 40億9,200万円	その他 9億 7,400万円	損益勘定留保資金 など 111億5,000万円
-------------------	----------------------	----------------------------

施設の建設・改良工事のため  
に国などから借りるお金

減価償却費などの現金支出を伴わない費用などを充当

**支出 162億1,600万円**

建設改良費 101億8,700万円	企業債償還金 60億2,900万円
----------------------	----------------------

施設の建設・改良工事のための費用

国などからの借入金の元金の返済

(3) 前年度との比較(収益的収支)

(単位：千円)

科目	区分	令和元年度	平成30年度	増減額(△減)	比率(%)
水道事業収益		27,758,657	28,047,109	△ 288,452	99.0
営業収益		24,742,790	24,945,584	△ 202,794	99.2
給水収益		23,648,986	23,711,382	△ 62,396	99.7
受託工事収益		111,161	112,013	△ 852	99.2
その他営業収益		982,643	1,122,189	△ 139,546	87.6
営業外収益		3,005,569	3,093,770	△ 88,201	97.1
受取利息		9,714	6,999	2,715	138.8
不動産賃貸料		32,366	32,301	65	100.2
水道加入金		1,189,381	1,344,343	△ 154,962	88.5
他会計補助金		342,964	351,098	△ 8,134	97.7
国庫補助金		26,108	874	25,234	2,987.2
長期前受金戻入		1,358,561	1,321,046	37,515	102.8
雑収益		46,475	37,109	9,366	125.2
特別利益		10,298	7,755	2,543	132.8
固定資産売却益		0	1,276	△ 1,276	皆減
過年度損益修正益		10,298	6,479	3,819	158.9
水道事業費用		24,962,156	24,103,223	858,933	103.6
営業費用		23,988,488	22,854,046	1,134,442	105.0
人件費		3,402,017	3,108,351	293,666	109.4
物品費		319,595	287,684	31,911	111.1
経費		6,075,496	5,704,014	371,482	106.5
受水費		5,820,030	5,812,214	7,816	100.1
減価償却費		7,791,826	7,638,630	153,196	102.0
資産減耗費		579,524	303,153	276,371	191.2
営業外費用		937,795	1,052,871	△ 115,076	89.1
支払利息		934,697	1,048,319	△ 113,622	89.2
雑支出		3,098	4,552	△ 1,454	68.1
特別損失		35,873	196,306	△ 160,433	18.3
過年度損益修正損		34,733	40,553	△ 5,820	85.6
固定資産売却損		476	2,093	△ 1,617	22.7
その他特別損失		664	0	664	皆増
減損損失		0	153,660	△ 153,660	皆減
当年度純損益		2,796,501	3,943,886	△ 1,147,385	70.9

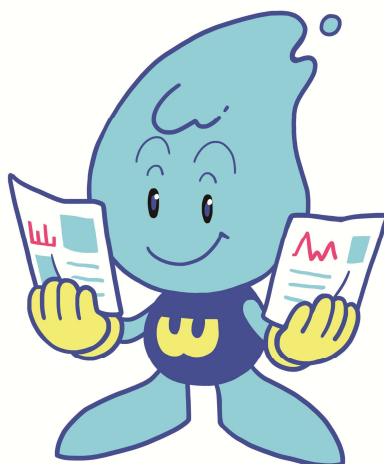
(注) 消費税及び地方消費税抜きの額である。

(4) 前年度との比較(資本的収支)

(単位：千円)

科目	区分	令和元年度	平成30年度	増減額(△減)	比率(%)
水道事業資本的収入		5,065,785	5,390,286	△ 324,501	94.0
企業債		4,092,000	3,927,000	165,000	104.2
固定資産売却代金		7,254	3,154	4,100	230.0
出資金		378,826	540,958	△ 162,132	70.0
国庫補助金		337,493	478,831	△ 141,338	70.5
開発負担金		154,141	340,726	△ 186,585	45.2
負担金		82,842	93,088	△ 10,246	89.0
その他資本的収入		13,229	6,529	6,700	202.6
水道事業資本的支出		16,215,853	15,118,868	1,096,985	107.3
建設改良費		10,186,401	9,393,237	793,164	108.4
配水管整備事業費		5,940,155	5,447,509	492,646	109.0
施設整備事業費		4,128,644	3,809,340	319,304	108.4
受託等工事費		117,602	136,388	△ 18,786	86.2
企業債償還金		6,029,452	5,725,631	303,821	105.3
差引		△11,150,068	△9,728,582	△1,421,486	114.6

(注) 消費税及び地方消費税込みの額である。



## 5. 主な実施事業

- 令和元年度に実施した主な事業を「水道事業中期経営計画」における2つの『目指すべき将来像』に沿ってご紹介します。

※【 】内の金額は令和元年度の事業費です。

### 1 強くて安心な水道

#### (1) 災害に強い施設・システムの整備

- 管路の耐震化【約54億5,400万円】  
約28.8kmの老朽管や、災害医療の拠点となる病院への配水経路3ヵ所を耐震性に優れた水道管へ更新しました。
- 浄・配水施設の耐震化【約14億3,300万円】  
荒巻配水所の更新や、茂庭浄水場配水池の耐震補強工事等を実施しました。
- 配水ブロックの再編【約7,900万円】  
災害時等の断水、濁水影響範囲の縮小化や早期復旧を図るため、配水ブロック再編や、配水幹線に不断水仕切弁を設置しました。



管路の更新工事

#### (2) 災害対応力の強化

- 災害時給水栓の設置【約3,500万円】  
大規模災害時などに効果的な応急給水ができるよう、市立小中学校13校に災害時給水栓を設置しました。  
(令和元年度末までに181箇所設置済)
- 非常用自家発電設備の更新等【約3億4,900万円】  
将監送水ポンプ場の非常用自家発電設備の更新等を実施しました。



災害時給水栓

#### (3) 水質管理の徹底

- 水質管理の充実・強化  
水道G L P (※) に基づいた精度管理・教育研修を実施しました。

※水質検査結果の制度と信頼性を確保するための認定基準。平成30年度に更新審査を受審して、再認定されました。



## 2 エコで持続可能な水道

### (1) 環境に配慮した事業の推進

- 省エネルギー型機器への切り替え【約4億1,500万円】※老朽更新費用を含む  
将監送水ポンプ場等の受変電設備や浄水場の照明設備について、省エネルギー型機器へ切替えました。
- 次世代自動車等の導入【約340万円】  
公用車の更新に合わせ、次世代自動車等へ切り替えました。

### (2) お客さま本位の事業の推進

- 水道事業に関する情報提供や体験・交流型広報の充実  
広報誌「仙台の水道H20」の全戸配布や、水道モニター会議の開催などを実施したほか、水道フェアや水道探検親子ツアー等を開催しました。

### (3) 経営マネジメントの推進

- アセットマネジメントの推進  
施設や設備に係る情報管理システムの構築に向けて、システム構成の検討を進めました。また、80年後を見据えた長期的な資産管理の考え方である「アセットマネジメントの方向性」と、30年後を見据えた持続可能かつ強靱な施設形態の構築を目指す「水道施設再構築構想」を示しました。

